慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	イナマ教授の日本墨西哥比較論
Sub Title	
Author	小泉, 信三
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.4, No.3 (1910. 9) ,p.355(109)- 359(113)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19100900-0109

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

義の結果に外ならざればなり。要するに英國の制度は遠く帝國の歴史に其根源を發するが故に吾人は此根源を動搖せしむるが如き何等の行爲ある可からず。予は長く乏を殖民地の公職に受くるものなるが故に下の斷定を下すに躊躇せざるなり。曰く職を殖民地に奉ずる者が衷心より喜んで其事に當るは一に其活動上の獨立を許與せらるゝが故なり。換言すれば彼等は自己の刻苦經營は皆一に自己の管轄に委せられたる幾多の生靈の福利を增進するの途なるを信ずるが故に能く櫛風沐雨の難に耐ふるなり。

大陸諸國が殖民地を統治するの方法は細微なる點に至る迄英國の制度と異なるものなり。卽ち大陸諸國の有する殖民地は單に海外に横はれる帝國の一斷片に過ぎざること恰かも英蘭の極北端にありてダーハムと稱せらるゝ地方が英蘭に對する關係の如し、從て下の結果を生ず、佛國又は獨逸より逃亡したる犯罪人は決して其殖民地に避隱することを得ず。而して之が爲めに毫も英國の如き逃亡罪人條例を制定するの必要なきなり。例之ば巴里の裁判所が發したる召喚狀は柴棍に於ける被告に對しても有效にして、伯林の裁判所が下したる判決は青島に於ても簡單容易に之を執行することを得可し。斯く大陸制度は我國の制度と相異すること頗る大なりと雖も加かも其中推奬す可き美點も亦少なからずして其根本的觀念に至つては帝國的なり。其詳細に至りては普通一般の人士に取りては頗る乾燥無味なりと雖も、現に殖民地を獲得せんとする新國家に取りては決して看過す可からざる所にして、現に日本が遭遇せる問題中最も緊要なる部分なりとす。蓋日本は大陸英國兩制度中に付きて自國の對殖民地方針を選定せざる可からざるに至る可し。今や曉霧未だ深くして豫言す可きの時に達せずと雖も、今日の徵候より之を見れば日本は各制度の粹を抜きて之を併用せんとするものゝ如し。故に若し批評家にして暫らく襟口傍觀日本をして平穩に其政策を實行することを得せしめんか、久しからずして同國は世界に對し最も完全なる殖民政策の模範を示すに至る可し（終）

日本墨西哥比較論

イナマ教授の　小泉信三

左の一文は經濟史の大家 Inama Streneegg 教授の近業 Neue Probleme des modernen Kulturlebens, Innsbruck 中一章の要領なり

太平洋の兩岸に二國の殆ど相對して位置せる者あり。一八六八年明治政府の建設以後斷へず全文明世界を驚嘆せしめつゝ、幼稚なる亞細亞的狀態を脱して最高の文化に到達したる日本及び既に三十年來大統領ポルフィリオ、ディアツの治下に前例なき平和的發達の時期に入り、全世界い大喝采裡に異常の速度と忍耐とを以て大膽に其文物發達を計畫する事世界史に殆ど其比を見ざる墨西哥と是なり。而して長き歴史を有する此二國が殆ど同時に「近代化」（モデルニジーレン）し共に同じく文明に向て大々的努力を試みたるの事實は自ら比較對照を禁せざらしむる者あり。固より其他の點に於ては歴史上境遇上二國の相異なる所甚だ多かる可しと雖而も二國が共に急激に凡ての近世の技術と國民經濟とを採用し之を同化したるは特に興味ある比較の要點たるを失はず。

二國の自然條件は甚だ異れり、墨國の領土の約半は熱帶線内にありヴエラクルツ、アカプルコの二大港、首都メキシコ（但し高二千米の臺地（テーブルランド）上にあるを以て氣候は溫和なり）亦此中にあれ共日本にては略同緯度に位する者は臺灣の一小部のみ、他は悉く北緯三十度四十度の間にありて溫帶的氣候を有す。國土の大は墨國日本に勝る事五倍なるも人口は日本却て四倍し之に韓國人（千乃至千五百萬）を加ふる時は其差更に大なり。然れ共人口增加率は過去三十年殆ど相等しくして年々共に百分一強を算ふ。併乍ら此增加率は兩者に對し各々異る意味を有する者にして日本にては其一部を對清對露戰後の領土擴張に歸す可きも、メキシコには全く其事なく、又日本は年々多數の人（一九〇〇年以後は十萬以上、但し其大部分は一時的移住者なり）を海外に送るもメキシコに於ては前年盛なりし合

衆國移住すら今は全く息止せるかの觀あり。人口の國內移動に於ても亦二國は同じからず、メキシコは肥沃の地にして人口の稀薄を患とする者多々なるに、日本に於ては北海道は毎年內地人の移住者四萬五千乃至六萬八千を受けつゝあり。されば要之日本の既に甚だ稠密なる人口は全體に於て未だ甚だ稀薄なるを免れざるメキシコの人口に比し遙に勝れる國力を表示する者と云ふ可きなり。

此墨西哥の人口が右述の如く著しく（一年百分一强）增加しつゝある事實の影響は第一に過去三十年來交通業の大發達に現はる、卽ち三十年前に比し鐵道の全長三十五倍し、旅客は十二倍、貨物噸數は五十倍を超へ、鐵道の收入亦實に三十五倍に達せり。之を日本に比ぶるに延長に於てはメキシコ勝る事二倍半（八千對一八千六キロメートル）なれ共旅客數は二分一（五二百萬對一〇五百萬）に過ぎず、輸送貨物噸數は僅に三分一（六百萬七噸對二百萬噸）を占む。此數字は明かに墨國鐵道の經營が如何に粗放的なるかを示せり、但し財政上の成績に關し英國側より加へられたる鐵道政策の非難は必しも當れる者に非ず。日本に於ては進步は常に遙かに急速に行はれ、鐵道の全長及び收入は三十年間に百倍せり。之れ實に比類なき發達にして當初の狀態の幼稚なりし事と日本國民經濟の偉大なる精力とを同時に表示す。

郵便電信に於ける墨國の進步は之を日本に比するも猶著しき者あり。一八七六年に較ぶるに兩國の郵便局數は共に三倍、其業務は共に約二十八倍電線の全長は三十年前よりも墨國に於ても六倍、日本に於ては八倍せり。然れ共日本の電線全長は墨國の夫れの約二倍（七千對一四千キロメートル）に過ぎざるに通信の數は日本實に五倍を有せり。

銀行業も亦墨國に於て大なる進步を遂げたり。一八七六年には株式資本五十萬弗を有する唯一の發行兼割引銀行存在したるのみなるも千九百三年には三十二銀行合計一億弗の資本を以て業務を行へり。此點に於ても之を日本に比す可し卽ち日本の銀行資本總計（三億七千三百萬圓）は一八七三年に比し百倍以上に達せるなり。

甚だ停滯的なるは墨西哥の海運業なり、沿岸航海を除くの外海上交通は殆ど全く外國船舶に依て行はれ、一九〇四年墨國港灣を出入せる船舶約千五百の中自國國籍を有する者僅に汽船四十四萬八千噸帆船四十八隻八千八百噸に過ぎず。此點に於ては千九百五年に汽船一七六六隻八十萬噸西洋型帆船四千隻三十二萬九千噸を有する日本とは到底比較す可くもあらず。而して日本は此點に就て明治年間に他の交通業と同樣なる長足の進步をなしたるも墨西哥に於ては停滯否寧ろ退步を見たり。蓋し千八百七十年には日本の船舶中長途の航海に堪ゆる者三五の汽船と十一の帆船此噸數計一萬八千を有したるのみなりしが、墨西哥の商船は二十年前却て今日よりも其數多きを算へたり。最近カナダメキシコ間の毎月航路に補助金を下附する事と決定したるは近頃に於て墨西哥政府が海運業に對し注意し喜憂せる唯一の實例なり。

墨西哥に於ける交通機關（但し海運を除く）及び信用組織の大なる發達の影響は最著しく外國貿易の成績に現はれたり。其價格は約三十年間に實に六倍（六百五十萬磅より三千七百萬磅）し、其中輸入は三倍、輸出は七倍の增加を示せり。日本の外國貿易は全價格八千一百萬磅（一九〇五年）にしてメキシコに勝る事三倍、而して其進步も亦遙に急速にして三十年前に比し十五倍半を現せり。但し之れに人口數相違の斟酌を加ふる時は墨西哥の貿易は既に高き程度に達せる者と云ふ可し、蓋し貿易額を人口に割當つる時は墨西哥に於ては一人五十志なれ共日本に於ては三十二志に過ぎざればなり。

墨西哥を以て前代に於て全世界に比疇を見ざる經濟的大發達をなしたる唯一眞個不思議の國なりと爲すは誇張に失す、何となれば尙此外に日本あり、千八百六十年代末の頃には何等世界經濟に關與する事能はざりしが遙に墨西哥に勝る向上的努力を以て今日世界經濟上其優越の地を贏得する事を得たるあればなりとの理は右揭の數字を以て之

を認むるに充分となす可し。

墨西哥は五十年以上に亘る內亂の終了と共に其自力を以て新なる國家的秩序、平和的事業、國力增進の時期に進入せり、之れ實に稱讃否寧ろ驚嘆に價す可き事に屬す。而して墨西哥が有爲、賢明、愼重にして啻に行政を改革するのみならず更に民心を刷新し之を向上指導するの道を解したる政治家ポルフィリオディアッを其大統領に戴く事を得たるは特別の幸運と云はざる可らず。此點に關しても日本は比較の好對象を供す、卽ち此國は無爲なる封建制度の後、王政復古の大業に依て國權の統一を得高き天分を有する國民が再び其長く壓抑されたる文化的欲望を發動せしむるに至りたる也。

然れ共此二箇の場合に於ても進步の動力が人民自身及び內外の諸條件中に存在する事なかりせば政治家一人の働きのみを以てしては到底永續的進步發展の保障、成績を得る事能はざりしや必せり。

然れ共二國が各新生涯に向て出發したる際に於ける其境遇の相異は實に甚しき者ありき。古き殖民地國たる墨西哥は幾世紀間歐洲の權力掌握者に依て其生產力を强搾せられしが、西班牙の羈絆を脫したる後に於ても尙自立する能はざりき。其經濟上の利を攫取せんとする者西班牙人に次でアングロサクソンあり、墨西哥を星章旗の下に合併せんとの運動は成功せざりしと雖尙活潑に行はれ、墨國內に於てすら其賛成者を有したりき。今日に於ても墨西哥を以て單に其利を强搾(エキスプロイテーレン)す可き國と思惟する者尠からず、外國殊に合衆國、獨逸、英吉利、加奈太の汽船會社は此國の輸出品殊に鑛業生產物を携へ去りて製造品殊に織物器械等を輸入し來る。墨西哥は其生產物を以て善く世界市場に現はるれ共其商業は決して積極的とは云ひ難きなり。日本の經濟的地位は由來全然之と同じからず。此國は頗る積極的にして企業心に富めり、卽ち先づ東亞に於ては淸國韓國は勿論、英領印度南洋諸國に其商人船舶商品を送り、而して實に對等者否な多くは優等者として之に臨み進んでは尙更に遠

隔の地にも及ばんとす。然るに諸外國の日本領域內に於けるや、只僅に步一步其商業的立脚地を擢保し得たるに過ぎず、方的强搾(アインザイチガヤッスポイッンル)の如きは思ひも依らざるなり。加之日本は一八八九年の金貨本位制採用に依り其對外關係を西歐諸國と全く同一水平線上に立たしむるに至れるも、墨西哥の本位制度——一九百五年以後法定比價一と三二の複本位——は不利の地位にあり、蓋し輸出は此改革の爲めに奬勵さる可しと雖國內の生產は銀の價格の低きに苦み又墨國が常に必要とする精製品の輸入は之に對して高價なる金を支拂ふ事を要するが故に甚しき困難を感ず可きなり。

日墨兩國が未だ相互に經濟上密接の交通を行はざる事は特に注目す可きの價値あり。日本船舶の影を墨西哥港灣に見たるの例は僅に一回あるのみ、墨西哥國旗に至ては日本に於て全く知らるゝ事なし。而かも此二國間の距離は甚だ遠からず、汽船を以てすれば橫濱を出でゝ九日或は十日にして墨西哥太平洋岸に到達す可く、而して其處に於て茶、絹物、陶器等に換へて銀、銅、錫、熱帶產物とを有利に贏得し得可きなり。一八五五年紐育に於て墨西哥合併の爲め一の結社組織せられたる際日米間經濟的連絡の最初の計畫は實に墨西哥を經由して之を行ふにありき、而して此會の會長として彼の日本の開發者ペリー提督が選任されたりしが如きは眞に運命のアイロニーたる觀あり。其後米人は桑港を經て日本に通ずるの路を發見せし爲め墨西哥を捨てゝ顧みざるに至りしが、一度太平洋に於ける最要港たるマザトラン、從前亞細亞貿易の鎖鑰と認められたるアカプルコ及び全世界の艦隊をも包容し得可き良好なる入江を有するトポロバムポの築港成るの曉には日本は決して將來に富める通商航海の利を逸せしむる事あらざる可く、又同時に墨西哥が其貿易上の消極主義を脫し、積極的態度に出で得て過去三十年の發達を成したる力を更に將來に向て展ぶるの時は來る可きなり。(完)

附言、イナマ教授が此文を草してより既に二年を經たり。事情、事實、の今日と異なる者なきに非ず、讀者の諒を望む。